

## 植民地朝鮮の日本語探偵小説

兪在眞

✉ jaejin@korea.ac.kr

### 1. 植民地における探偵小説

探偵小説研究の礎石を築いたと言われているハワード・ヘイクラフト Howard Haycraft『娯楽としての殺人—探偵小説・成長とその時代 Murder for Pleasure: The Life and Times of the Detective Story』(D.Appleton-Century: New York, 1941)は、探偵小説というジャンルを成り立たせる条件として近代的法制度と民主主義を挙げている。つまり、いくら近代化を遂げた国家であったとしても、イタリアやドイツのような独裁政権の下では探偵小説ジャンルが栄えることはできないということだ。ヘイクラフトのこの指摘は今日でもなお受け継がれているが、彼の考察にはアジア圏の国家は含まれていない。況してや「民主主義」的状况ではなかった植民地における探偵小説の存在などは言わずと知れたところである。

しかし、言うまでもなく日本を含めたアジアでも、さらには植民地期の朝鮮を含めた植民地でも、探偵小説は絶え間なく書かれ、流通し享受されていた。従来の「日本」「韓国」における探偵小説研究の成果がまさにその証であろう。しかし、これら従来の「日本」「韓国」の探偵小説(日本・韓国で日本人あるいは韓国人が、日本語・韓国語で書いた探偵小説)研究は、無意識的に或る死角地帯を作ってしまった。それが、植民地朝鮮における日本語探偵小説の存在である。植民地朝鮮には韓国語で書かれた探偵小説もちろん存在するが、日本語で書かれた探偵小説も確実に流布され享受されていたのである。よって、ここでは今までその存在すら全く知られることのなかった植民地期朝鮮における日本語探偵小説の全体像を紹介したい。

その数は決して多いとは言えないが、従来の一国主義的な文学観では見落とされていたこれらの作品や資料を研究することによって、任意的に引かれた無

数の境界線を相対化し、植民地文学の複層的な様相を明らかにすることが出来るであろう。また、アジアにおける探偵小説の受容と変容、或いはアジアにおける探偵小説の特性までもが同時に究明できるといえる。

## 2. 植民地朝鮮の日本語探偵小説

植民地朝鮮での韓国語探偵小説は、当然のことであるがその書き手は韓国人であり、読み手も韓国人であった。しかし一方、日本語探偵小説の場合はその状況がより複雑であって、書き手は韓国人と在朝日本人、または「内地」日本人であり、読み手は在朝日本人と韓国人となる。

### 1) 韓国人の日本語探偵小説

韓国人が日本語で書いた探偵小説は、現在のところ下の1作品だけが確認されている。

作・者	題・目	掲載誌	出版年月
金三圭	杭に立つたメス1~3	朝鮮地方行政	1929.11~1930.1

この作品は、従来韓国人が書いた最初の日本語探偵小説と言われてきた金来成の「楕円形の鏡」(『ぶろふいる』1935.3)より、約6年も先に書かれたものである。探偵小説としての出来栄えから見ても、当時の朝鮮における探偵小説の創作状況から見ても、この作品は異例の作と言わざるをえないだろう。

### 2) 「内地」作家の探偵小説

植民地朝鮮においては「内地」で書かれた探偵小説が、書籍や日本語雑誌掲載の形で流通していた。たとえば、小酒井不木の「変態心理と犯罪—天才と癲癩」(『朝鮮地方行政』1926.5)や、江戸川乱歩の「探偵趣味」(『朝鮮及満州』1927.1)などが在朝日本語雑誌に掲載されている。また当時、朝鮮総督府図書館は、白水社刊行の〈近代世界快著叢書〉第3篇『恐怖の谷』(1922)、第4編『名馬の行方』(1924)などを所蔵していた。さらに1929年~30年『東亜日報』の新刊紹介欄には、平凡社の〈世界探偵小説全集〉や〈ルパン全集〉の広告文が幾度となく掲載されていることから、こうした探偵小説が朝鮮で盛んに流通していた状況を窺うことができる。

### 3) 在朝日本人の探偵物

植民地朝鮮における日本語探偵小説のなかで量的に最も多いのが、在朝日本人による探偵小説やその類の読み物である。種類別に分類すると以下ようになる。

#### ①探偵小説

創 作			
作 者	題 目	掲載誌	出版年月
竹本国夫	映画脚本 時代劇捕物帳狂戀の刃(一)~(二)	朝鮮公論	1926.2~3
木内爲棲	探偵小説 深山の暮色	朝鮮地方行政	1928
山崎黎門人 (京城探偵趣味の會)	探偵コント 意地わる刑事	朝鮮公論	1928.6
山崎黎門人 (京城探偵趣味の會)	蓮池事件	朝鮮公論	1928.1
佐川春風	短篇探偵小説 寶石を覗ふ男	朝鮮地方行政	1928.3
木内爲棲	探偵小説 深山の暮色	朝鮮地方行政	1928.4
末田晃 (京城帝國大學豫科)	探偵小説 獵死病患者(一)~(三)	警務彙報	1929, 1930, 1935
京城探偵趣味の會同人	コント 六人集	朝鮮公論	1930.6
吉正信夫 (京城探偵趣味の會)	秋夜話 ホクロ奇談	朝鮮公論	1930.9
吉井信夫 (京城探偵趣味の會)	探偵巷談 癡狂因第十一号の告白	朝鮮公論	1931.1
古世渡貢 (京城探偵趣味の會)	探偵巷談 空気の差	朝鮮公論	1931.1
島津透	犯罪小説 地獄への入場券	朝鮮公論	1933.1
山崎黎門人 (京城探偵趣味の會)	連作探偵小説 女スパイの死(一)~(五)	朝鮮公論	1931.1~5
岩田岩満 (忠南大田署)	誌友文苑 探偵小説 魃魔	警務彙報	1931.8
秋郎長夫	奇探偵小説 マダム一夜物語	朝鮮公論	1933.5
三田谷啓(醫學博士)	探偵奇談 暗夜に狂ふ日本腦天唐竹割りの 血吹雪	朝鮮公論	1934.1
山崎黎門人 (京城探偵趣味の會)	連作連載探偵小説 三つの玉の秘密・(一)~(三)	朝鮮公論	1934.2~4

創 作			
作 者	題 目	掲載誌	出版年月
秋良春夫	探偵小説 捕物秘話 (一)~(二)	朝鮮公論	1934.2~3
白扇生	探偵奇談 關に浮いた美人の姿	朝鮮公論	1934.9
青山俊文	探偵小説 水兵服の膺札少女	朝鮮公論	1936.9
翻 訳			
トマス・ファア-ロング作 鈴木抱拙生 譯述	寄書 探偵五十年 (一)~(三)	警務彙報	1913.7~9
野田生〔總督府〕	小説 青衣の賊 (一)~(八)	警務彙報	1920~1921
コナン・ドイル作 倉持高雄譯	探偵小説 謎の死(一)~(四)	朝鮮公論	1925.9~12
コナン・ドイル作 倉持高雄譯	探偵小説 名馬の行方(一)~(二) 未完	朝鮮公論	1928.7~8
エドワード・エス・バイソン作 川崎義雄譯	怪奇小説 人命を操る謎の「カード」	朝鮮遞信協會雜誌	1930
ヒアルト・アルクケア作 伊東銳太郎譯	翻譯探偵小説 夜行列車奇談	朝鮮公論	1936.9
岩田岩滿 (忠南大田署)	誌友文苑 探偵小説 讎魔	警務彙報	1931.8

## ②探偵実話物

作 者	題 目	掲載誌	出版年度
高橋亨	毒婦	朝鮮の物語集	1910
變裝子(胡蝶)	奇々怪々戀幻出沽録 稀代の毒婦金齒のお龜 (一)~(三)	朝鮮公論	1914.6~8
-	寶石巖屋と馬賊の秘密 (一)~(二)	朝鮮公論	1914.11~12
一名(青衣の女)	探偵奇譚 奇々怪々不思議な指輪の行方 (前篇のみ)	朝鮮公論	1922.4
白上祐 (千葉縣警察内務部長)	犯罪捜査の話(一)~(六)	警務彙報	1922~23
貳等 / 名取保太郎〔順天署〕, 二等 / 松井豊次〔寶城署〕, 三等 / 波賀野岩吉〔康津署〕, 佳作 / 原田直市〔長興署〕, 佳作 / 道下盛義〔警務局〕, 佳作 / 石橋泰次郎〔木浦署〕	第七回懸賞文 犯罪捜査の話	警務彙報	1923

作者	題目	掲載誌	出版年度
NS生	盜賊の話 益世報滑稽欄より	警務彙報	1923
松本輝華	忠南異聞戀か?恨か?謎々書記の死を環る女二人の自殺	朝鮮公論	1924.1
老刑事	探偵實話 全盛時代の兼二浦の想ひ出で (一)~(三)	警務彙報	1927
竹添蝶二	朝鮮犯罪物語	(朝鮮)司法協會雜誌	1927
竹添蝶二	藝文書法・朝鮮犯罪夜話	警務彙報	1928
木村常信 (法學専門學校教授)	犯罪雑話	警務彙報	1929
森二郎	實話 カフェ-女將と拳銃事件	朝鮮公論	1930.9
仰木行雄・中谷	黒田騒動秘聞捕物人情噺(一)	警務彙報	1931
伯嶺生	犯罪實話 大正天一坊事件(一)~(二)	朝鮮公論	1931.2~4
加藤伯嶺	犯罪鎖談	警務彙報	1932
伊藤憲郎 (高等法院檢事)	實地檢證の旅-永興管内の強盜殺人事件	朝鮮	1933.1
Y・黎門人	探偵實話 彼をやつつける	朝鮮公論	1933.1
渡津透	犯罪秘話 彈丸にまつはる捜査物語	朝鮮公論	1933.8
伊藤憲郎 (京城覆審法院檢事)	或る犯罪の話	朝鮮地方行政	1934
八木靜二郎 (全北任實警察署長、 全羅北道警部)	探偵實話	警務彙報	1936.8
青山倭文二	探偵實話 犯罪實驗者	朝鮮公論	1937.4
立川信人 (平北高等課)	科學探偵鑑識物語	警務彙報	1939.10

### 兪在眞 Jaejin Yu

(韓国)高麗大校日語日文学科。副教授。植民地期朝鮮の日本語ミステリー文学、日本語児童文学、在日文学を含めて韓国人作家の日本語創作など。『韓国人の日本語探偵小説試論——金三圭「杭に立つたメス」——』(『일본학보』 제98집, 서울: 한국일본학회, 2014. 2)、『탐정취미-경성의 일본어 탐정소설』(서울: 도서출판 문, 2012)。